

校歌

徳嶺忠作詞  
佐々木英作曲

空を仰げば

魂ゆらぎ

地を踏みゆけば

肉躍る

歴史は古き

藍山の

男子の気噴

吹き明れ

動きますくに

飾りなく

いや伸びいそぐ

龍城の

松の大幹

とりどりに

生立つべき

日は近し

空を睹よ

地を踏みゆけよ

あくまで深き

天地に

まきの身力

徹らしぬよ

寮歌

伊藤保三郎 作歌

箱根足柄 雪消えて

足る日の光 さし来れば

狩野の大川 悠々と

世は永劫の 春に入る

小霧流るる 蛭が島

出丸が岡の 夕映に

燃ゆる錦の 草紅葉

織る五つとせや 旅衣

昔思えば 葦山は

北溟の海 英雄の

鵬雛巢立ち するところ

巢籠る吾よ 巢立つ日よ

憧れ行けば 文の道

武林の奥の 果もなく

寮の灯の またたきに

故郷偲ぶ 慕雨の魂

嗚呼蛍雪の 明け暮れて

身に昼錦を 飾る日も

胸のしらべは 忘れじな

龍城の松の 夜半の音

# 競技部応援歌 一

長 徳 太 郎 作 歌

青雲高く いななきて  
銀の蹄に 風を呼び  
一瞬千里 天翔ける  
天馬に似たる この意気や

北溟ほくめいの波 蹴破りて  
芙蓉に羽打つ 九万里  
月日つきひにせまる 鳳おおとりの  
翼に似たる この力

意気と力を 生命いのちなる  
我が龍城の 健男児  
ただ突き進め ましぐらに  
栄光永久に 我にあり

# 競技部応援歌 二

福 間 敏 夫 詩

龍城山下 日は晴れて  
闘わんかな 時到来  
ローマを偲ぶ 健児等は  
シ鳥虚空を 仰ぐごと

踰躍ゆやくの思いに 耐え難く  
蓋世がいせの意気 燃ゆるかな  
いざ戦えや わが選手  
ルビコン既に 後にあり  
熱血躍る 我友の

希望は高し オリンピア  
覇者はしゃの冠かむりを 戴きて  
ああ 敵陣を突かんかな